

# 声の仏念

編集・発行：「御同朋の社会をめざす運動」岐阜教区委員会広報部

〒500-8882 岐阜市西野町3丁目1 電話(058)262-0231 FAX(058)263-7353

http://www.hongwanji-gifubetsuin.jp/ E-mail:info@hongwanji-gifubetsuin.jp

2013(平成25)年11月1日発行 vol.233



事務所から本堂を臨む

## 如燈風中



岐阜教区教務所長  
御同朋の社会をめざす運動

岐阜教区委員会委員長

河村 信昭

昨年よりご本山を始め私たちのお寺は、「そとつながる ホツがつたわる」をスローガンに「絆」を確かめる、「ご縁」の輪を広げること目標に新たな運動を開始しました。東日本大震災を契機に人と人の繋がりの大切さ、家族の絆づくりの大切さ、重要性が叫ばれています。

今まで、私たちの周りを覆っていた言葉は、無関心ではなかったでしょうか？このことは、家庭において親のあふれるような子どもへの愛情、そして子どもからの親への絶対的な安心感が築けないことが問題だと思っています。自分さえよければいい、たった一度の人生、どう生きようと私の勝手、楽しく生きなかつたら損をする。そんな思いが、他人に目を向けることのできない風潮を生んだと思います。

阿弥陀という仏様は、果てしない時を超え、大きな恵みの主となり、私たちを慈しみ、護り続けていてくださいます。その仏様のお慈悲・慈しみのころ・愛情・愛に反対する言葉は、何でしょうか？憎い・憎しみ、嫌いでしょうか？憎い・嫌い、これらは相手が居て初めて、その人が見えているから感じることに。私は無関心だと思っています。無関心は、他人が倒れていても、その人が泣いていても、その人がどんなにしんどい思いをしても、私の目の中にその人が、その姿が入ってこない。東日本大震災、知り合いでなくても、友達でなくても、相手が見えなくても、皆、目が向けられた。心配いたしました。

相手を思う気持ちがある私の中にある。誰にでもあること、持っているものです。しかし、気の毒にも心配する片方で、自分でなくてよかったですと感じる心のあるのも事実です。いいもの、良い心、悪いものも両方持っている私であります。

こんな私だからこそ、仏様の前で「おかげさま」「ありがとございませう」と頭を下げざるを得ないのです。阿弥陀という仏は、自身住持の業を求めず、じっとしていることができない。自分だけが幸せであることを喜べない。仏様の一番の願いは、望みは、あなたの幸せ、あなたの笑顔、阿弥陀という仏様は、自ら集めた功德の一切を持って、私の煩惱の一本一草の全てを焼き尽くして共に仏様への道を歩いて下さる。そんな仏様に願われたお互いであるならば、絆を確かめ、ご縁を深め、仏様とともに皆、手を取り合って歩んで行きたいと思えます。井上前所長の後を受け継ぎました河村です。よろしくお願いたします。

ナーモ



岐阜別院本堂をイメージしたロゴマーク

大遠忌法要のテーマとロゴマークが  
決定しました

# さいいこうお寺

常に自己中心の心から離れられない私たちに、親鸞聖人は私たちに、阿弥陀如来さまの教えを聞き、教えに導かれて生きることが大切なのだとお示しくださっています。

「さいいこうお寺」というテーマには、岐阜教区・岐阜別院親鸞聖人大遠忌法要を機縁として、私たち一人ひとりが一度でも多くお寺に足を運び、仏さまの教えを聴聞させていただくご縁を結んでいきたい、という思いが込められています。

かいびやく

## 永代経開闢法要をお勤めしました。



### 尊い永代経(院号)懇志を ありがとうございました。

9月22日～24日と岐阜別院本堂にて、永代経(院号)懇志を納めていただいた方の、開闢(かいびやく・始まりの意)法要をお勤めしました。3日間合計で44名の参拝者でした。参拝者が法要記念式章をしている姿が印象的でした。次回の開闢法要は春のお彼岸3月19日～21日に開催されます。

今後も永代経(院号)懇志をご進納いただきますよう、お願いいたします。

### 事業予算と現況 (一部)

◆総事業予算	7億8,018万円		
●崇敬寺院門徒懇志			
総予算		2億6,545万円	
現在	9,493万円		達成率 36%
●永代経(院号)懇志			
総予算		2億6,200万円	
現在	5,240万円		達成率 20%
●別院門徒懇志			
総予算	6,300万円		
現在	3,801万円		達成率 60%
●僧侶懇志			
総予算	2,672万円		
現在	1,053万円		達成率 39%
●特別懇志			
総予算	1,000万円		
現在	1,771万円		達成率 177%

(2013年9月30日現在)

## 工事関係者のあいさつ



菅野企画設計  
社長  
菅野良司

この度は、親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念事業に当たり、建築工事の設計監理の重任を拝命し、こころより光栄に思っております。今回のご計画は、間口10間×奥行20間の本堂耐震補強、鉄骨造の教化センター新築そして境内の整備とバラエティーに富んでおります。はたして、この膨大な設計内容を期限内に図面化し、与えられた予算内に納めることができるのだろうか。実は当初から不安を抱いております。そのため、スタッフが一丸となって期限内に設計図、概算書を完成し入札。予算内で落札したと聞いた時は、計画が第一関門を突破できたと、胸をなでおろしました。ただ、工事はこれから二〇一五年末までの長丁場です。今まで培ってきた弊社のノウハウを駆使して、皆様の期待にお応えできる完成を目指してまいります。



松井建設株式会社  
名古屋支店  
執行役員支店長  
小俣政之

この度、岐阜教区・岐阜別院親鸞聖人七五〇回大遠忌法要記念事業である「本願寺岐阜別院本堂改修・教化センター新築等工事」の施工を拝命できた事を深く感謝しております。また、この歴史的な事業に携わる貴重な経験を与えて頂いたことを光栄に感じるとともに、その重責に身の引き締まる思いが致します。

弊社は、京都本山の本願寺様の式務部棟建設の他、多くの社寺建築にも携わり一五八六(天正十四)年の創業以来、社寺建築を使命として経験と技術を積み重ねて参りました。これから本願寺岐阜別院様の記念事業の完遂に向け、弊社の技術の総力をあげて取り組む所存でございます。

つきましては、岐阜教区のご寺院・ご門徒の皆様、菅野企画設計様、並びに工事関係者の皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

## 香光殿解体の工事



## 本堂南側の新築中のトイレ



境内整備の一環として本堂南側にトイレを新築しています。

## 工事中の別院境内



教化センター新築のため事務所前に白い塀を設置しています。



## 心安らぐ居場所としての

# お寺づくり

中川北組 圓勝寺 橘 行信

私はキッズサンガを行う前に毎回必ず確認することがあります。それは、キッズサンガにおける心構えをお示し頂いたご門主のお言葉です。「子どもたちとともに」と題されましたその文章を毎度一読し、子どもたちの前へと臨みます。子どもが好きで、ただただ子どもと触れ合うことに夢中になってしまいがちな私の性格からして、このお言葉は常に私の役割を軌道修正して頂けます。

その中に『キッズサンガのめざす「お寺を子どもたちの居場所に」とは、単に「お寺を子どもたちの遊び場に」ということではなく』とありますように、私たちの役割は、お寺を子どもたちにとって「今ここにいる私が全面的に受けとめられる場」「心安ら

ぐ居場所」に感じてもらい、身近な存在になるよう努めることです。いわば、子どもたちにお寺の良さをプレゼンテーションするような気持ちが大切だと思えます。そのためには「手段」である遊びや催し、お泊まりが「目的」になってはいないか。「自分の居場所」と感じてもらえているか。と問い続ける必要があります。お寺じゃないとできないこと、お寺だからできることを考えながら、やれることからやる姿勢が、いつかお寺を自分の居場所と思ってくれる一人を生み出すと思います。

私のお寺では、「子ども法要」と称して盂蘭盆会を子ども中心でお勤めします。子どもの多くは低学年以下ですが、大人と同様に作法を重んじ読経し、法話も聴



「子ども法要」での腹話術の様子

聞いてもらいます。そのような環境に慣れていない子どももありますが、こちらが丁寧に寄り添い、気にかけてあげると自然とやるべき事するべき事をやってくれます。おときの流しそうめんは我先にとなりがちですが、譲り合うことや行儀よく食することを意識させています。物を大切に扱う、食べ物に感謝する、他人を思いやる、といったことも「宗教的空間であるお寺」だからこそ子どもたちにより一層浸透しやすいのではないかと思います。またご門徒さんがご用意して下さる餅



本堂掃除の様子

つきや腹話術、マジックショーなどの催しも子どもたちに毎年好評です。ご門徒さんも子どもたちにただ楽しんでもらうだけではなく、お寺で何か学んでもらいたい、お寺が居心地がいい場所だと感じてもらいたいという気持ちで子どもたちと接して頂いています。そして最後にはみんなで一日過ごした本堂を掃除します。これは保護者の方の提案から始めたことですが、掃除をするという教育的意味合いだけではなく、お寺を肌で感じて親しんでもらいたいという思いがあります。

子どもたちも一所懸命に掃除し、綺麗になったことを誇らしげにアピールしてくれます。

キッズサンガで大切なものは、催しの規模や充実度、参加人数などではなく、子どもたちにお寺を居場所に、仏法を身近に感じてもらうことであり、そのために何ができるかを模索するのが重要ではないでしょうか。それは勿論、家庭のお仏壇の前でもできることであり、家族単位でもできる取り組みです。私たちが本気で子どもにみ仏のお慈悲を知ってもらいたいという心意気を持って接すれば、子どももお寺に行つていいんだ、仏事に参加していいんだという気持ちにきつとなってくれるでしょう。

最後に、組内にある正光寺様には、毎日近所の子どもたちが誘い合つて遊びに来ています。時には自主的に掃除をしたり、花壇の世話をしたり、犬の散歩をしたりと、お寺を自分の家のように思っているようです。この姿こそ、キッズサンガのめざす「私が全面的に受けとめられる心安らぐ居場所」なのではないでしょうか。

## 同一念仏無別道故



玄中寺の御住職とご一緒に

親鸞聖人は、『正信偈』のなかで龍樹・天親・曇鸞・道綽・善導と、インドと中国の祖師方のお名前を挙げて、それぞれの方が阿弥陀さまのことをどのようにならかにしていかれたかを順に示して、深く讃仰しておられます。この浄土真宗という教えの流れにわが身を少しでも浸してみたい。その思いは日増しに強くなっ

ていくばかりだったので、思い切った実際に行ってみることにしました。そもそも、お釈迦さまがいなかったら仏教もないので、第一弾印度編として、ネパール・北インドのお釈迦さまゆかりの地をめぐりました。次いで翌年、南インドの龍樹菩薩ゆか

りの地をめぐり、そして、今年は第二弾中夏編として、八月末に曇鸞大師ゆかりの山西省をたずねました。なかでも、曇鸞・道綽・善導三祖の御旧蹟である玄中寺に行くことができたことは感慨深いものがありました。

しかし、正直なところ、今回は出発前にいつもとは違った不安を抱えていました。もともと今の中国や中国人に対してあまりいい印象を持っていないところに、最近領土問題などによる日中政府関係の冷え込み、PM2.5といった大気汚染の問題。また特に八月は「戦争」を意識させられる時期でもありますので、いわゆる反日のまなざしを向けられたらどうしようかとあれこれと心配でした。

けれど、行く先々のお寺で目にしたものは、恭しく丁寧にお参りする中国人の姿でした。

あるお寺で、お坊さんからお経本をいただいたので「シェイシェイ(謝謝)」と言うと、その方は合掌しながら「アミタファ(阿弥陀仏)」と言ってニコツとされました。阿弥陀仏が挨拶になる。衝撃的でした。それから、行く先々で、微笑みの「アミタファ」を交わしました。

また、腰の曲がったおばあさん達がお念仏しながら行道する姿や、おばさん達

が嗚咽しながらお念仏する姿もありました。私たちはただ念仏するしかありませんでした。でも、言葉もなくても、一つに通じ合える南無阿弥陀仏があつてよかったと思えました。

ガイドの温おんさんの

「みんな浄土教の兄弟ですよ」

という言葉聞いて、聖人も引用された曇鸞大師のお言葉

「同一に念仏して別の道なきがゆるに。遠く通ずるに、それ四海のうちみな兄弟とするなり。」

が頭に浮かびました。

何人であろうと、どのような価値観であろうと、苦しみや悲しみを抱えずに生きられないのはいつの時代もみな同じ。そこをよくよく見通して、先に問題としてくれていた阿弥陀さまから、同じ念仏をいただく者はみな、同じ一本道の仏道を歩んでいる仲間であるとあらためてよろこばせていただきました。中国はやはり浄土教の源流でした。今回も自分の思い違いをたたきつぶされるいい旅でした。

南無阿弥陀仏

中川南組 慶円寺

阿部信樹

## 二〇一三(平成二十五)年度 岐阜教区「公聴会」開催報告

宗門・本山の新体制発足後二年目が経過する状況の下、総局よりの情報提供、並びに御同朋の社会をめざす運動(実践運動)を中心に、寺族及び門信徒から直接的な意見や提言を宗務に反映させることを目的として、九月二十六日(木)の午後、別院本堂にて公聴会が開催された。

宗派から、本多隆朗総務、佐々木恵精総合研究所長、長屋善洋総合研究所部長、岩佐善静本願寺出版社賛事の出席を、教区からは宗会議員、教区会議員、正副組長、「御同朋の社会をめざす運動」教区と組の委員長・副委員長、教化団体役職者を中心に関係者の参加を得ての開催であった。

協議内容は、報告事項として来年六月六日に執り行われる法統継承式についての説明があり、引き続き御同朋の社会をめざす運動(実践運動)について意見聴取のかたちで協議会がもたれた。

意見聴取の会では、各組から具体的な実践内容が報告されたが、最初に「葬送儀

礼・葬儀を行う意味を伝えていく」を実践目標にした東陽組から報告があり、葬儀業者との懇談・研修会の開催。模擬葬儀の実施。最近話題になっている「終活」について等を踏まえた研修を行っているとのことであった。

揖斐組からは「御同朋の社会をめざす」集いを開催し、雅楽演奏を伴った音楽法要の勤修、仏前結婚式やキッズサンガの実践発表、さらに総合研究所から講師を招聘し寺院活動事例集『開かれたお寺』を参考にした講話を実施し、組の目標である「日常の寺院活動・地域と寺院とのつながりを大切にする」の具体例が報告された。このことは、中日新聞の西濃版に紹介され、まさに地域性が発揮された事例であったといえる。

長良組からは、「子育て支援・コートジボワールの子供たちに愛の靴を送る支援」について報告があった。門徒さんを通してのご縁から、地元のNPO法人の活動に共同参加するかたちで西アフリカの子供たちへ靴並びに筆記具を送る活動が報告された。また、残ろうそくをネパールやブータンへ送る活動であるとか、地元の問題にも目配りしながらグローバルな活動実践が報告された。

さらに、実践運動に対する要望や意見

が多く出されたが、主な事柄としては、実践運動の基本理念について、基幹運動の成果を継承するというがその成果の具体的内容について、実践項目の取り組みを今後どう集約し計画するのか、点検評価の具体性について等(丸一組)。念仏者を育てることと社会貢献することの整合性はどのように図られるのか(西濃北組)。公益性や公共性ということについて教団として基準のようなものが設定されるのか(西濃南組)。東日本大震災の被災地へ想いを馳せ続けることの大切さについて(中川北組)等の発言があり、最後に宗派よりの総括的な話で締めくくられた公聴会であった。

西濃南組 縁覚寺

楠 眞

(御同朋の社会をめざす運動  
教区委員会副委員長)



## 岐阜教区教務所長 歓迎迎会 本願寺岐阜別院輪番



二〇一三(平成二十五)年八月二十七日(火)、ホテルグランヴェール岐山にて「岐阜教区教務所長・岐阜別院輪番 歓迎迎会」が行われ、岐阜教区内関係者や岐阜別院関係者約一三〇名が出席しました。

初めに春日規章 教区会議長が発起人代表として挨拶しました。続いて井上博雄 前教務所長・前輪番が岐阜で過ごした四年間を振り返られ、河村信昭新教務所長・新輪番が就任の挨拶として今後の岐阜教区発展への決意を述べられました。

また、橋正信岐阜県仏教会会長・浄土真宗本願寺派宗会議員、杉山令憲岐阜県仏教会理事長、橋秀憲真宗大谷派岐阜別院輪番、杉山元彦学校法人聖徳学園理事長、塩谷千尋黒野あそか苑施設長を来賓に迎え、代表として橋正信氏と杉山元彦氏に挨拶をいただきました。祝宴は和やかな雰囲気の中執り行われ、盛況のうちに閉会となりました。

## お知らせ

### 岐阜別院

### 『報恩講法要』のご案内

十二月四日(水)

日中法要 午前十時より  
速夜法要 午後一時より

十二月五日(木)

日中法要 午前十時より  
速夜法要 午後一時より  
初夜法要 午後七時より

十二月六日(金)

日中法要 午前十時より  
講師 大阪教区南都組正満寺  
本願寺派輔教

安方哲爾師

### 報恩講 『聞法のつどい』

十二月六日(金)

報恩講日中引き続き  
講師

・岐阜教区丸一組願明寺  
本願寺派布教使

田中秀哉師

・岐阜教区揖斐組長寶寺  
本願寺派布教使

筑間達朗師

・本年度報恩講法要講師

安方哲爾師

皆様お誘い合わせのうえ  
お参りください

### 「東日本大震災支援金」 宗派受付窓口

郵便振替

〇一〇六〇一八一〇〇

加入者名

浄土真宗本願寺派 宗務所

通信欄に「東日本大震災支援金」とご記入ください

### 編集後記

時間は待つてはくれませんが、暑かった夏が終わり、秋が来て季節は冬へと移り変わります。時代の流れも、人の気持ちも待つてはくれません。この度いよいよ岐阜別院宗祖七五〇回大遠忌法要記念事業が着工され、別院の風景も様変わりして参りました。その中で、我々が変わることのない法灯を受け継ぎ、引き継いでいかなければなりません。大遠忌法要をむかえるにあたり、今一度聖人が命がけでお示くださったお念仏のみ教えをきき、ともに生かされている命を見つめていきたいものです。

合掌